

独裁世襲貴族支配者とは己国民すら平気で地獄に追いやるサタン性を明らかにする・これらを知れば民主主義真髓と必然性が判ろうと言う物！。

(1)田中宇氏の国際ニュース解説 2008/8/28 記事：〈既に仕掛けられてる米国の自爆〉

田中氏はこのサイトを通じて何回も「米国は自滅を謀っている」という指摘をしている。これを言う国内ジャーナリストは彼を置いて他に居ない。この記事の一つにブッシュ政権により次期政権時の財政破綻時限爆弾が仕掛けられてると言う内容。そもブッシュは政権就任とほぼ同時にロッキード社への破格の 30 兆円大規模の軍用機発注を政令し、そしてその後はイラク侵略に見る膨大な政府財政支出と大赤字でクリントンの折角の経常収支黒字化をご破算にした。又その後の今日までの米国景気下支えになった住宅景気が甘い低金利ロンで貧困層を誘惑して将来返済負担を無視して金融ミンチとして世界財務市場に強行供給されていた事。実際それは今有名なサブプライム＝抵当ロン破綻になって明らか。更に医療介護の政府の健康保険支出が次期政権時代に一気に増大する事、全てが彼ら政権就任後の破綻が容易周到に用意されてという仕掛けになっているという。ではなぜ自国民ともあろう者を犠牲にするか？。実はここが本質になる。

(2)世襲支配階級のサタン化心理の歴史：

高所に昇れば誰も落ちるの高所恐怖に駆られる。歴史を振り返れば世襲支配者が残忍に化けるサタン化の秘密とは正に(高所地位＝支配階級)の没落恐怖にこそある〈墮天使神話〉。確かに我々平民にはいささか伺い知りえぬ事でも在ろうが、歴史を回顧すれば判る。独裁支配者は常に己地位を狙う者に警戒を人一倍払わねば成らなかつた。その為に部下から支配平民に至るまで、諜報の耳を放つのが歴史の常である。反逆失敗者には常に残忍な運命が待ち受けて来た事は何処の歴史にも良く見られる。特に悪政独裁であれば有るほどに残忍さを必要とした。北朝鮮金正日の過去現在を見れば誰も了解できる事だし、戦前戦後の日本とて似た事情もある。ベトナム、アルジェリア解放闘争、南米の反米闘争皆然りでないか！。日米戦争は秋丸機関の軍事シミュレーションで敗北が事前に承知されてたが、軍部反対を無視して開戦決意したのは昭和天皇自身である〈終戦は自分が決めたの偽善〉。近衛文麿の「敗戦よりも(国内)革命が恐ろしい！」は彼等の被支配国民の中国戦争撤退で予想される国内混乱を恐怖する心理表現で余りある。実はこれが米自滅の意味も明かす。だからこそ神はこの残忍さにも心痛め、高地位高慢の墮天使＝悪魔サタン神話ができたとも思われるし、これこそが過去現在と人類普遍の大問題でもあるのだ。

(3)米国ブッシュ極右翼政権とは国家国民は奴隷の 19 世紀ドイツ独裁思想の悪遺産。

良く知られた話だがブッシュは骸骨と骨結社秘密社員、それはドイツ光輝結社から派生したと言われる米国支部。それはドイツプロイセン貴族独裁思想の御用哲学者ヘーゲルの「国民と天才は支配者の手先」とか「常に敵を創造して永久闘争」で内部矛盾を隠蔽して己地位を守るなどの思想全てに表現されてる。即ち国家国民は支配独裁世襲貴族の奴隷と言う次第。従って米国事情を考えればブッシュ極右に取り最大恐怖は昭和天皇同様に身内の国民自身なのであり、だから民主政権では財政時限爆弾を持って民主党と国民内部の分裂＝己世襲支配階級に迫る危険な米国中産階級の潰しを陰謀し、己悪政を煙幕で隠そうと言う目論みである・彼ら少数支配世襲財閥にすれば海外で儲かるならば米国内事情などお構いなしと言う事でもある。彼らは骸骨を前に死ねば徒の骨、生きてる間に遣り放題を歌う無神論だから己地位我執では何でも強引に遣る超危険たる事を知らねば成らない。自作の 9/11、口実でっち上げのイラク戦みな然り。今後の出方も以上で予測できよう。

参考書：:K.Millegan & A.Sutton,闇の超権力.スカル&ボンズ、徳間書店、2002.